

【必修問題】

目標Ⅰ. 看護の社会的側面および倫理的側面に関する基礎的知識を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 健康に関する指標	A. 健康に関する指標	a. 総人口
		b. 年齢別人口
		c. 労働人口
		d. 将来推計人口
		e. 世帯数
		f. 婚姻・家族形態
	B. 人口動態	a. 出生の動向
		b. 死亡の動向
		c. 死因の概要
	C. 健康状態と受療状況	a. 平均余命
		b. 有訴者の状況
		c. 有病率・罹患率
		d. 受療行動・受療率
		e. 入院期間
		f. 外来受診状況
2. 健康と生活	A. 生活行動・習慣	a. 食事・栄養
		b. 睡眠
		c. 運動
		d. 飲酒
		e. 喫煙
		f. ストレス
		g. メンタルヘルス
		h. ライフスタイル
		i. 性行動
	B. 労働	a. 職業と疾病
		b. 労働環境
		c. 雇用形態
		d. 母性保護と両立支援
	C. 生活環境	a. 水・空気・土壌
		b. 食品衛生

大項目	中項目	小項目
		c. 住環境・社会環境
3. 保健医療制度の基本	A. 医療保険制度	a. 医療保険の種類
		b. 国民皆保険
		c. 国民医療費
		d. 高齢者医療制度
		e. 給付の内容
	B. 介護保険制度	a. 保険者
		b. 被保険者
		c. 給付の内容
		d. 要介護認定
4. 看護の倫理	A. 基本的人権の擁護	a. 個人の尊厳
		b. 患者の権利
		c. 自己決定権と患者の意思
		d. インフォームドコンセント
		e. ノーマライゼーション
		f. 情報管理（個人情報の保護）
	B. 看護倫理	a. 看護職員の役割
		b. 看護の倫理綱領
		c. 倫理的葛藤と倫理調整
5. 関係法規	A. 保健師助産師看護師法	a. 保健師助産師看護師の業務
		b. 看護師に禁止されている業務
		c. 守秘義務
		d. 業務従事者届
	B. 看護師等の人材確保の促進に関する法律	a. 基本方針
		b. 養成制度
		c. 就業状況

目標Ⅱ. 看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う。

大項目	中項目	小項目
6. 人間の特性	A. 人間と欲求	a. 基本的欲求
		b. 社会的欲求
	B. 患者の特性	a. QOL
		b. 患者ニーズ

大項目	中項目	小項目
		c. 健康に対する意識
		d. 疾病に対する意識
		e. 疾病・障害の受容過程
7. 人間の成長と発達	A. 胎児期	a. 形態的発達
		b. 先天性異常
		c. 胎児期の異常
	B. 新生児期・乳児期	a. 発達の原則
		b. 身体の発育
		c. 運動能力の発達
		d. 栄養
		e. 親子関係
		f. 先天免疫と獲得免疫
	C. 幼児期	a. 身体の発育
		b. 運動能力の発達
		c. 排泄の自立
		d. 言語発達
		e. 社会性の発達
		f. 基本的生活習慣の確立
	D. 学童期	a. 運動能力・体力の特徴
		b. 社会性の発達
		c. 学習に基づく行動
	E. 思春期	a. 二次性徴
		b. アイデンティティの確立
		c. 親からの自立
		d. 異性への関心
	F. 成人期	a. 社会的責任と役割
		b. 生殖機能の成熟と衰退
		c. 基礎代謝の変化
	G. 老年期	a. 運動能力・体力の変化
		b. 知覚・感覚の変化
c. 認知能力の変化		
d. 心理社会的変化		
e. 個別性・多様性		
8. 患者と家族	A. 家族の機能	a. 家族関係

大項目	中項目	小項目
9. 主な看護活動展開の場と看護の機能	B. 家族形態の変化	b. 家族構成員
		a. 家族の多様性
		b. 構成員の変化
	A. 医療提供施設	c. 疾病が患者・家族に与える心理社会的影響
		a. 病院
		b. 診療所
		c. 助産所
	B. 保健所・市町村保健センターにおける看護活動	d. 介護老人保健施設
		a. 保健所の業務
		b. 市町村保健センターの業務
		C. 地域・在宅での看護
	b. 訪問看護ステーション	
	c. 介護保険施設	
d. 地域包括支援センター		
D. 看護管理	a. 看護体制	
	b. 看護チーム	
E. 関連職種との連携	a. 関連する職種	
	b. チーム医療	
	c. 看護の役割	

目標Ⅲ. 看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。

大項目	中項目	小項目
10. 生命活動	A. 人体の構造と機能	a. 恒常性<ホメオスタシス>
		b. 血液・水・電解質
		c. 体温
		d. 感染防御と免疫反応
		e. 循環器系
		f. 呼吸器系
		g. 神経系
		h. 消化器系
		i. 泌尿器系
		j. 代謝・内分泌系
		k. 骨・筋系
		l. 性と生殖器系
		m. 遺伝
	B. 正常な妊娠・分娩・産褥	a. 妊娠の成立
		b. 妊娠の経過

大項目	中項目	小項目
		c. 分娩の経過
		d. 産褥の経過
	C. 人間の死	a. 死の三徴候
		b. 死亡判定
		c. 脳死
		d. 死の受容過程
11. 病態と看護	A. 症状と看護	a. 意識障害
		b. ショック
		c. 発熱・低体温
		d. 脱水
		e. 黄疸
		f. 頭痛
		g. 咳嗽・喀痰
		h. 吐血と喀血
		i. チアノーゼ
		j. 呼吸困難
		k. 胸痛
		l. 不整脈
		m. 腹痛・腹部膨満
		n. 嘔気・嘔吐
		o. 下痢
		p. 便秘
		q. 乏尿、無尿、頻尿
		r. 浮腫
		s. 貧血
		t. 睡眠障害
		u. 感覚の異常
		v. 運動の異常（麻痺・失調）
		w. けいれん
12. 主要疾患と看護	A. 生活習慣病	a. 虚血性心疾患
		b. 高血圧症
		c. 脳血管疾患
		d. 糖尿病
		e. 依存症（アルコール・ニコチン・薬物）

大項目	中項目	小項目
	B. がん	f. メタボリックシンドローム
		a. がん対策基本法
		b. 予防
		c. 診断と告知
		d. 治療
		e. QOL
	C. 感染症	f. 緩和ケア
		a. インフルエンザ
		b. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA)
		c. 腸管出血性大腸菌感染症
		d. ウイルス性肝炎
		e. 結核
		f. ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症/後天性免疫不全症候群<AIDS>
		g. 麻疹・風疹・水痘
	D. 外因性障害	h. 感冒<かぜ症候群>
		a. 熱傷
		b. 骨折
		c. 創傷の治療過程
		d. 外傷性ショック
		e. 熱中症
	E. 精神疾患	f. 虐待
		a. うつ病
		b. 統合失調症
		c. 神経症性障害
	F. 小児疾患	d. 心的外傷後ストレス障害<PTSD>
		a. 気管支喘息
		b. 小児感染症
		c. 乳幼児突然死症候群<SIDS>
	G. 高齢者の疾患	d. 先天性疾患
		a. 認知症
13. 薬物治療に伴う反応	A. 主な薬物の作用と副作用	b. 骨粗鬆症
		a. 抗菌薬
		b. 抗ウイルス薬

大項目	中項目	小項目
		c. 抗がん薬
		d. 強心薬・抗不整脈薬
		e. 狭心症治療薬
		f. 降圧薬・昇圧薬
		g. 利尿薬
		h. 副腎皮質ステロイド
		i. 糖尿病治療薬
		j. 中枢神経作用薬
		k. 麻薬
		l. 消炎鎮痛薬
	B. 医薬品の安全対策	a. 混合の可否
		b. 禁忌
		c. 保存方法
		d. 薬理効果に影響する要因
		e. 誤薬

目標Ⅳ. 看護技術の基本を問う

大項目	中項目	小項目
14. 基本技術	A. コミュニケーション	a. 言語的コミュニケーション
		b. 非言語的コミュニケーション
		c. 面接技法
	B. フィジカルアセスメント	a. バイタルサイン(体温・呼吸・脈拍・血圧)の測定と評価
		b. 意識レベルの評価
		c. 呼吸音聴取の方法と評価
		d. 腸蠕動音聴取の方法と評価
		e. 運動系の観察と評価：日常生活動作<ADL>・関節可動域<ROM>・徒手筋力測定<MMT>
	C. 看護過程	a. 情報収集
		b. アセスメント
		c. 計画立案
		d. 実施
		e. 評価

大項目	中項目	小項目
	D. 看護記録	a. 記録形式
15. 日常生活援助技術	A. 食事	a. 食事の環境
		b. 食事介助の方法
		c. 誤嚥の予防
	B. 排泄	a. 床上排泄
		b. 導尿
		c. 浣腸
		d. 摘便
		e. 失禁のケア
		f. ストーマ造設患者のケア
		g. ドレーンの管理
	C. 清潔	a. 入浴
		b. 清拭
		c. 口腔ケア
		d. 洗髪
		e. 部分浴
		f. 陰部洗浄
		g. 整容
		h. 寝衣交換
	D. 活動・休息	a. 睡眠
		b. 移動・移送
c. 廃用症候群の予防		
E. ボディメカニクス	a. 体位	
	b. 体位変換の基本	
	c. 移動介助での基本	
16. 患者の安全・安楽を守る技術	A. 療養環境	a. ベッド
		b. 病室環境
		c. 共有スペース
		d. 居住スペース
	B. 医療安全対策	a. 転倒・転落の防止
		b. 誤薬の防止
		c. 患者誤認の防止
		d. 誤嚥・窒息の防止
		e. 情報伝達と共有・管理



大項目	中項目	小項目
	C. 院内感染防止対策	f. リスクマネジメント・セーフティマネジメント
		g. インシデントレポート
		a. スタンダードプリコーション
		b. 手洗いの方法
		c. 無菌操作
		d. 滅菌と消毒の方法
		e. 針刺し・切創の防止
17. 診療に伴う看護技術	A. 栄養補給	a. 経管栄養法
		b. 経静脈栄養法
	B. 薬物療法	a. 与薬方法
		b. 薬効・副作用（有害事象）の観察
	C. 輸液管理	a. 刺入部位の観察
		b. 輸液ポンプの取り扱い
		c. 点滴静脈内注射の管理
	D. 採血	a. 穿刺部位
		b. 採血方法
	E. 電法	a. 電法の種類と適応
		b. 温電法の方法
		c. 冷電法の方法
	F. 呼吸管理	a. 酸素吸入時の原則
		b. 酸素ポンプの取り扱い
		c. 酸素流量計の取り扱い
		d. 鼻腔カニューラ
		e. 酸素マスク
		f. ネブライザー
	G. 吸引	a. 口腔・鼻腔吸引
		b. 気管吸引
		c. 体位ドレナージ
	H. 救急救命処置	a. 気道の確保
		b. 人工呼吸
		c. 心マッサージ
d. 直流除細動器		
e. 自動体外式除細動器<AED>		

大項目	中項目	小項目
		f. 止血
		g. 体温の保持・冷却
	I. 皮膚・創傷の管理	a. 包帯法
		b. 創傷の管理
		c. 褥瘡の予防・処置
	J. 災害看護	a. トリアージ
		b. 応急処置の原則
		c. 搬送・移送
		d. こころのケア

【人体の構造と機能】

目標Ⅰ. 日常生活を営むうえで、人体がどのような構造をもち機能しているかについての理解を問う。

目標Ⅱ. 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体についての理解を問う。

大項目	中項目	小項目	
1. 生命と恒常性〈ホメオスタシス〉	A. 細胞・組織・器官	a. 細胞の構造	
		b. 遺伝子と遺伝情報	
		c. 組織	
		d. 器官	
	B. 内部環境の恒常性〈ホメオスタシス〉	a. 体液	
		b. 体液の電解質	
		c. 体液の酸塩基平衡	
		d. 体温	
	C. 生体のリズム	a. サーカディアンリズム	
		b. 睡眠と覚醒	
	2. 血液	A. 血液の成分と機能	a. 血液の成分
			b. 血液の物理化学的特性
c. 血液の働き			
d. 造血と造血因子			
B. 止血機構		a. 凝固と線溶	
C. 血液型		a. ABO 式と Rh 式	
3. 生体の防御機構		A. 非特異的生体防御機構	a. 生体表面〈皮膚・粘膜〉での防御機構

大項目	中項目	小項目	
		b. 食細胞とサイトカイン	
		c. 胸腺・脾臓・リンパ節	
	B. 特異的生体防御反応（免疫系）	a. 免疫系の細胞	
		b. 抗原と抗体	
		c. 液性免疫	
		d. 細胞性免疫	
e. アレルギー反応			
4. 循環系	A. 心臓	a. 心筋	
		b. 刺激伝導系	
		c. 心臓の構造	
		d. 心臓の機能	
	B. 血管系	a. 動脈系と静脈系	
		b. 肺循環と体循環	
		c. 冠循環	
		d. 脳循環	
		e. 脈拍	
		f. 血圧	
		g. 胎児の血液循環	
	C. リンパ系	a. リンパ	
		b. リンパ管	
	5. 呼吸器系	A. 呼吸器	a. 鼻腔の構造と機能
			b. 咽頭・喉頭の構造と機能
c. 気管・気管支の構造と機能			
d. 肺の構造と機能			
e. 呼吸運動			
f. 呼吸機能			
g. 声帯と発声			
B. ガス交換		a. 外呼吸と内呼吸	
		b. ガス交換	
C. 酸素・二酸化炭素の運搬		a. 酸素	
	b. 二酸化炭素		
6. 神経系	A. 神経細胞と神経組織	a. 神経細胞と情報伝達	
		b. 神経組織	
		c. 神経膠細胞	

大項目	中項目	小項目	
	B. 中枢神経系	a. 大脳の構造と機能	
		b. 視床と視床下部の構造と機能	
		c. 脳幹の構造と機能	
		d. 小脳の構造と機能	
		e. 脊髄の構造と機能	
		f. 脊髄反射	
		g. 中枢神経系の統合機能	
	C. 末梢神経系	a. 脳神経	
		b. 脊髄神経と神経叢	
		c. 体性神経系	
		d. 自律神経系	
	7. 運動系	A. 骨格	a. 骨の構造と機能
			b. 体の支柱
			c. 四肢の骨
d. 頭蓋骨と胸郭			
B. 関節		a. 関節の構造と種類	
		b. 関節可動域<ROM>	
C. 骨格筋		a. 骨格筋の構造	
		b. 筋収縮の機構	
		c. 抗重力筋	
		d. 四肢の筋	
		e. 頸部の筋	
		f. 表情筋	
		g. 呼吸筋	
		h. 骨盤底筋	
D. 姿勢		a. 体位と構え	
8. 感覚器系		A. 視覚	a. 眼球の構造
			b. 視力と視野
			c. 形状認知と色覚
			d. 視覚の伝導路
			e. 眼球運動
	f. 眼球に関する反射		
	B. 聴覚	a. 耳の構造	
		b. 聴覚と聴力	

大項目	中項目	小項目
	C. 平衡覚	a. 平衡器官の構造
		b. 平衡覚
	D. 味覚	a. 味覚受容器の構造と味覚
	E. 嗅覚	a. 嗅覚受容器の構造と嗅覚
	F. 体性感覚	a. 皮膚の構造と機能
		b. 漿膜と粘膜
		c. 皮膚の感覚受容器
		d. 皮膚感覚の種類
		e. 深部感覚の受容器
	G. 内臓感覚	a. 内臓感覚の受容器と認識
9. 内分泌系	A. ホルモンの種類	a. ホルモンの化学的性質と作用機序
	B. ホルモン分泌の調節	a. 調節ホルモン・拮抗ホルモン
		b. フィードバック機構
	C. 内分泌器官の構造とホルモンの機能	a. 視床下部
		b. 下垂体
		c. 甲状腺
		d. 副甲状腺〈上皮小体〉
		e. 膵島
		f. 副腎皮質
		g. 副腎髄質
		h. 消化管ホルモン
		i. 腎臓のホルモン
		j. 性腺ホルモン
10. 消化器系	A. 咀嚼	a. 歯・口腔の構造と機能
		b. 咀嚼
	B. 嚥下	a. 咽頭の構造と機能
		b. 食道の構造と機能
		c. 嚥下
	C. 消化と吸収	a. 胃の構造と機能
		b. 十二指腸の構造と機能
		c. 空腸・回腸の構造と機能
		d. 結腸の構造と機能
		e. 直腸・肛門の構造と機能
		f. 肝臓・胆道の構造と機能

大項目	中項目	小項目
		g. 脾臓の構造と機能
11. 代謝	A. エネルギー代謝	a. 同化作用と異化作用
		b. 酵素
		c. 栄養所要量
		d. 基礎代謝
		e. 炭水化物の代謝
		f. 脂肪の代謝
		g. 蛋白質の代謝
		h. 核酸の代謝
		i. ビタミン・ミネラルの代謝
12. 泌尿器系	A. 尿の生成	a. 腎臓の構造
		b. 濾過
		c. 再吸収と分泌
	B. 細胞外液の調節	a. 抗利尿ホルモンの作用
		b. レニン-アンジオテンシン-アルドステロン系
	C. 排尿	a. 尿管の構造と機能
		b. 膀胱の構造と機能
		c. 尿道の構造と機能
	13. 生殖と老化	A. 女性の生殖系
b. 卵管・子宮・陰の構造と機能		
c. 性周期		
d. 妊娠・分娩・産褥		
e. 乳腺		
B. 男性の生殖系		a. 精巣・精巣上体の構造と機能
		b. 精子の形成
		c. 付属生殖腺の構造と機能
C. 受精と発生		a. 受精
		b. 胎児の発生
D. 成長と老化		a. 組織および臓器の形態的加齢変化
		b. 組織および臓器の機能的加齢変化
		c. 代謝機能の加齢変化

【疾病の成り立ちと回復の促進】

目標Ⅰ. 健康から疾病に至る変化のプロセスについての理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 疾病の成立と疾病からの回復	A. 疾病の原因	a. 疾病を引き起こす内的・外的要因
		b. 疾病を引き起こす生活習慣
	B. 生体の回復力	a. 回復力に影響する身体・心理・社会的因子

目標Ⅱ. 疾病がもたらす身体内部の変化についての理解を問う。

大項目	中項目	小項目
2. 基本的な病変	A. 細胞の傷害	a. 萎縮
		b. 変性
		c. 壊死とアポトーシス
	B. 細胞の傷害に対する修復・再生・適応	a. 創傷とその治癒
		b. 再生と修復
		c. 肥大と過形成
	C. 基本的な病変とその機序	a. 循環障害
		b. 炎症
		c. 免疫異常<アレルギーと自己免疫疾患>
		d. 代謝障害
		e. 老年症候群
		f. 先天異常
		g. 腫瘍
	D. 健康状態を脅かす微生物	a. 人と微生物のかかわり
		b. 微生物の種類と特徴
		c. 微生物の感染経路と潜伏期間
d. 感染症		
e. 薬剤耐性菌		
3. 疾病に対する医療	A. 疾病の診断	a. 健康な状態からの変化を確認する診断過程
		b. 全身状態評価のための一般的検査
		c. 特殊な検査
	B. 疾病の治療	a. 手術適応と外科的治療
		b. 麻酔

疾病の成り立ちと回復の促進

大項目	中項目	小項目
		c. 放射線による治療
		d. 輸液療法・輸血
		e. リハビリテーション
		f. 臓器移植
	C. 疾病に対する薬物療法	a. 与薬
		b. 薬物の体内動態、薬理作用、副作用（有害事象）
		c. 血糖降下薬
		d. 心臓に作用する薬
		e. 降圧利尿薬
		f. 血液凝固に関係する薬
		g. 免疫抑制薬
		h. 抗がん薬
		i. 抗菌薬・抗ウイルス薬
	D. 医療による健康被害	a. 薬害
		b. ウイルス性肝炎
c. クロイツフェルト・ヤコブ病		

目標Ⅲ. 疾病の特性について理解を問う。

大項目	中項目	小項目
4. 神経機能の障害	A. 中枢神経系の疾患	a. 脳血管系の循環障害
		b. 頭蓋内圧亢進に伴う症状
		c. 神経変性・脱髄性の疾患
		d. 認知症
		e. 中枢神経系の感染症
		f. 頭部と脊椎の外傷
		g. 脊椎の外傷と脊髄損傷
		h. 中枢神経系の腫瘍
		i. 二次的に意識障害・神経障害を起こす疾患
	B. 末梢神経系の疾患	a. ギラン・バレー症候群
		b. 糖尿病性神経障害
	C. 感覚機能の障害	a. 視覚の障害
		b. 聴覚・平衡覚の障害
		c. 嗅覚と味覚の障害

疾病の成り立ち  
と回復の促進



大項目	中項目	小項目	
		d. 皮膚の障害	
5. 呼吸機能の障害	A. 気道と肺の疾患	a. 気道・肺の炎症	
		b. 気道の閉塞をきたす疾患<気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患>	
		c. 肺循環障害<肺梗塞、肺塞栓症>	
		d. 肺の腫瘍	
		e. 呼吸不全	
6. 循環機能の障害	A. 心臓の疾患	a. 先天性心疾患	
		b. 虚血性心疾患	
		c. 心筋症	
		d. 心不全	
		e. 不整脈	
		f. 心内膜炎と弁膜疾患	
	B. 血管系の疾患	a. 動脈硬化症	
		b. 高血圧	
		c. 閉塞性動脈硬化症	
		d. 大動脈瘤	
		e. 静脈瘤	
7. 造血機能の障害	A. 造血器の疾患	a. 貧血	
		b. 出血傾向と凝固・線溶系の異常	
		c. 白血球減少症	
		d. 造血器の腫瘍<白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫>	
8. 免疫機能の障害	A. 膠原病	a. 全身性エリテマトーデス<SLE>	
		b. 関節リウマチ	
		c. シェーグレン症候群	
	B. アレルギー性疾患	a. 花粉症<アレルギー性鼻炎>	
		b. 蕁麻疹	
		c. 接触皮膚炎	
	C. 免疫不全	a. ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症	
	9. 栄養の摂取・吸収・代謝機能の障害	A. 栄養バランスの不均衡による疾患	a. メタボリックシンドローム
			b. 肥満
c. 脂質異常症（高脂血症）			
d. 高尿酸血症と痛風			

大項目	中項目	小項目	
	B. 口腔と食道の疾患	e. 必須栄養素とエネルギーの不足による疾患	
		a. 口腔と食道の機能障害<咀嚼・嚥下機能の障害> b. 口腔・食道の疾患	
	C. 消化管の疾患	a. 消化管の炎症と潰瘍	
		b. 消化管の腫瘍	
		c. イレウス	
	D. 肝臓・胆嚢・膵臓の疾患	a. 肝臓・胆嚢・膵臓の炎症	
		b. 肝硬変	
		c. 肝臓・胆嚢・膵臓の腫瘍	
		d. 肝不全	
		e. 胆汁代謝・排泄の障害	
		f. 糖尿病	
	10. 排泄機能の障害	A. 泌尿器の疾患	a. 腎・尿路の炎症
			b. 腎・尿路の腫瘍
c. 腎・尿路の通過障害			
d. 腎不全			
B. 排便の障害		a. 便秘	
		b. 下痢	
11. 内部環境調節機能の障害		A. 内分泌系の疾患	a. 下垂体の疾患
			b. 甲状腺の疾患
	c. 副甲状腺<上皮小体>の疾患		
	d. 副腎の疾患		
	e. 多発性内分泌腫瘍		
	B. 体液の調節障害	a. 水と電解質の異常	
		b. 酸塩基平衡の異常	
	C. 自律神経系の機能障害	a. 自律神経失調に伴う身体変化<不定愁訴>	
	12. 運動機能の障害	A. 骨・関節・筋肉の疾患	a. 骨折
			b. 骨粗鬆症
c. 骨の腫瘍			
d. 変形性関節症			
e. 筋ジストロフィー			
f. 筋萎縮性側索硬化症<ALS>			
B. 活動や行動の制限による疾患		a. 褥瘡	

と疾病の成り立ち  
回復の促進

大項目	中項目	小項目
13. 生殖機能の障害	A. 生殖器の疾患	a. 女性生殖器の疾患
		b. 乳腺の疾患
		c. 男性生殖器の疾患

【社会保障制度と生活者の健康】

目標Ⅰ. 人間を生活者としてとらえ、家庭・家族生活の側面、よりよく生きようとする社会的存在としての人間についての理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 生活基盤	A. 生活単位	a. 人口動向（少子高齢化、総人口の減少）
		b. 家族〈世帯〉
		c. ライフサイクル
	B. 家庭生活の基本機能	a. 生産・労働
		b. 教育・養育
		c. 保健・福祉
		d. 生殖
		e. 慰安・交流
	C. 生活の場と健康	a. 都市と農・漁村（人口集中と過疎化）
		b. 住居
	D. 労働と健康	a. 就業構造
		b. 労働時間
		c. 仕事と余暇
d. 所得		
2. ライフスタイル	A. 家族の機能と役割	a. 夫婦の役割機能の変化
		b. 家族内介護者の変化
		c. 育児と介護の社会化
		d. 家事機能の変化
	B. ライフスタイルの変化	a. 雇用労働の進行
		b. 女性労働の変化
		c. 少子化
		d. 健康寿命の延長
		e. 余暇時間
		f. 生涯学習

大項目	中項目	小項目	
		g. 地域活動への参加	
		h. 家族観の多様化	
	C. 生活習慣の確立	a. 生活習慣病の概念	
		b. 発達課題別生活習慣	
		c. セルフケアの確立	
	3. 人間の集団としての働き	A. 集団の形成・発達	a. 集団の凝集性
			b. 集団の意思決定
c. グループダイナミクス			
B. 地域における人間関係		a. 親族、近隣、交際のネットワーク	
		b. 地域のソーシャルサポートネットワーク	
		c. 学校における人間関係	
C. 職場における人間関係		a. 組織の中での役割	
		b. 上司との関係	
		c. 同僚との関係	

目標Ⅱ. 社会保障の理念と基本的な制度の考え方についての理解を問う。生活者の生活問題に対する法律に基づく社会福祉の方法と課題についての理解を問う。

大項目	中項目	小項目
4. 社会保障の理念	A. 保健医療福祉活動の基本方向	a. 概念、目的、機能、体系、内容
		b. 人権、日本国憲法 25 条
		c. 倫理
		d. ノーマライゼーション
		e. 情報公開、地方分権、参加
		f. 社会保障給付費
		g. 社会保障制度改革
5. 社会保険制度	A. 社会保険の変遷	a. 歴史、意義
		b. 国民皆保険・皆年金
	B. 医療保険制度	a. 健康保険、国民健康保険と高齢者の医療制度
		b. 保険給付と利用者負担
		c. 医療保険の財政
		d. 保険診療の仕組み
		e. 公費負担医療
f. 国民医療費		

大項目	中項目	小項目	
	C. 介護保険制度	a. 制度の基本理念	
		b. 保険者・被保険者	
		c. 要介護・要支援の認定	
		d. 保険給付と利用者負担	
		e. ケアマネジメント	
		f. 介護保険の財政	
		g. 介護保険事業計画	
	D. 年金制度	a. 制度の体系	
		b. 給付と費用負担	
E. その他の社会保険制度	a. 雇用保険法		
	b. 労働者災害補償保険法		
6. 社会福祉諸法の理念と施策	A. 社会福祉の理念と変遷	a. 社会福祉基礎構造改革と社会福祉法	
		b. 措置制度から選択、利用制度へ	
		c. 利用者保護の制度	
	B. 生活保護法と施策	a. 生活保護の基本原理と実施の原則	
		b. 実施機関	
		c. 扶助の種類と内容	
	C. 障害者(児)の施策	a. 障害者基本法	
		b. 障害者自立支援法	
		c. 身体障害者福祉法	
		d. 知的障害者福祉法	
		e. 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律	
	D. 児童への施策	a. 児童福祉法	
		b. 児童虐待の防止等に関する法律	
		c. 母子及び寡婦福祉法	
		d. 少子化対策	
	E. 老人への施策	a. 老人福祉法	
	F. その他の施策	a. 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律<DV法>	
	7. 社会福祉行政	A. 保健福祉計画	a. 子ども・子育て応援プラン
			b. 障害者基本計画と障害者プラン
		B. 社会福祉の民間活動	a. 民生委員、児童委員
			b. 社会福祉協議会
			c. ボランティア活動

大項目	中項目	小項目
	C. 国、地方公共団体の行政、組織およびマンパワー	d. 特定非営利活動促進法〈NPO法〉
		a. 福祉事務所
		b. 児童相談所
		c. 社会福祉施設
		d. 在宅サービス機関
		e. 保健師
		f. 理学療法士・作業療法士
		g. 介護支援専門員〈ケアマネジャー〉
		h. 社会福祉士・介護福祉士
		i. 精神保健福祉士
	D. 老人保健福祉行政の展開	a. 入所措置権の市町村への委譲
		b. 市町村および都道府県の老人福祉計画
		c. 高齢者の生きがい対策
		d. 介護予防

目標Ⅲ. 公衆衛生の基本内容、生活者の健康増進に対応した法制度および保健活動の進め方についての理解を問う。

大項目	中項目	小項目
8. 健康と公衆衛生	A. 公衆衛生の概念	a. 公衆衛生の領域、活動の特徴
		b. プライマリヘルスケア
		c. ヘルスプロモーション
		d. 健康の概念
		e. 世界保健機関〈WHO〉加盟国の役割
	B. 健康と環境	a. 生態学的環境
		b. 物理化学的環境
		c. 社会的環境
		d. 身体的、精神・心理的影響
	C. 疫学的方法による健康の理解	a. 健康被害と母集団
		b. 疫学的因果関係の推定
		c. 臨床疫学とエビデンス
	9. 健康指標と予防	A. 健康に関連した指標
b. 人口静態		
c. 出生		
d. 死亡・死因		

大項目	中項目	小項目	
		e. 死産、周産期死亡、乳児死亡	
		f. 平均余命、平均寿命	
		g. 健康寿命	
		h. 有病率・罹患率	
	B. 感染症とその予防	a. 感染症の成立要因	
		b. 感染症の流行現象	
		c. 感染症予防の基本	
		d. 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律〈感染症法〉	
		e. 院内感染とその予防	
		f. 予防接種	
		g. 結核予防	
		h. ヒト免疫不全ウイルス〈HIV〉感染症/後天性免疫不全症候群〈AIDS〉	
	10. 生活環境の保全	A. 地球環境	a. 地球温暖化
			b. オゾン層の破壊
c. 酸性雨			
d. 水質汚染			
e. 大気汚染			
f. 土壌汚染			
B. 食品管理および家庭用品		a. 食品安全確保対策	
		b. 食品衛生管理制度	
		c. 家庭用品の安全対策	
C. ごみ・廃棄物		a. 一般廃棄物と産業廃棄物	
		b. 市町村と企業の責任	
		c. 生活廃水処理	
D. 住環境		a. バリアフリー	
		b. 室内空気汚染と健康問題	
11. 保健活動		A. 地域保健	a. 地域保健法の理念と指針
			b. 健康日本 21
			c. 健康増進法
			d. 市町村保健センター
	e. 保健所		
	B. 母子保健	a. 母子保健法	

大項目	中項目	小項目
		b. 母子健康手帳
		c. 保健指導・訪問指導
		d. 健康診査・健康教育
		e. 養育医療
		f. 健やか親子21
		g. 児童虐待防止
		h. 母体保護法
		C. 学童期の健康管理
		b. 健康診断・健康相談
		c. 感染予防
		d. 学校環境衛生
	D. 生活習慣病予防	a. 主な生活習慣病の現状
		b. 栄養・運動・休養
		c. 喫煙・飲酒
		d. 健康教育と早期発見
		e. がん対策基本法
		f. 循環器疾患の予防
		g. 糖尿病の予防
		h. 特定健康診査、特定保健指導
	E. 難病対策	a. 特定疾患治療研究事業
	F. 職場の健康管理	a. 労働安全衛生法
		b. 健康管理・職業病の予防
		c. トータル・ヘルスプロモーション
		d. 作業環境・作業環境管理

目標Ⅳ. 人々の健康を守るためのサービス提供機関と従事者の役割・機能に関する基本的な法律についての理解を問う。

大項目	中項目	小項目
12. 医療機関と医療従事者の職務の機能と役割	A. 保健師助産師看護師法	a. 目的・定義
		b. 免許
		c. 業務
		d. 守秘義務
	B. 医療関係法規	a. 医療法
		b. 医師法



大項目	中項目	小項目
		c. 薬剤師法
		d. 診療放射線技師法
		e. 臨床検査技師等に関する法律
		f. 理学療法士及び作業療法士法、言語聴覚士法
		g. 社会福祉士及び介護福祉士法、精神保健福祉士法
	C. 医療サービスの供給体制	a. 医療施設の機能
	b. 救急医療の充実	
	c. 診療記録・情報公開	
	d. 薬局の種類と機能	
	e. 在宅医療	
	f. 訪問看護ステーション	
	g. 助産所	
	h. 医薬品と医療用具の取り扱い	
	i. 毒薬・劇薬の取り扱い	
	j. 医療過誤	
	D. 看護職員の確保・労働と関係法規	a. 労働基準法
	b. 育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律<育児・介護休業法>	
	c. 看護師等の人材確保の促進に関する法律	

【基礎看護学】

目標Ⅰ. 看護の基本となる概念についての理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 看護の基本となる概念	A. 看護の本質（概念）	a. ケアとケアリング
		b. 看護理論（ニード論、相互作用/人間関係論）
		c. 看護実践における理論知と実践知
		d. 役割と機能
		e. 対象者とその理解
		f. 看護の変遷（ナイチンゲール、我が国の職業看護と教育制度）
	B. 人間と健康	a. 全体としての人間
		b. 歴史的・関係的存在としての人間

大項目	中項目	小項目
		c. 成長発達する存在・ライフサイクルと健康のかかり
		d. 健康の諸定義、主観的健康と客観的健康
		e. 健康の諸相
		f. 健康への影響要因
	C. 生活と健康	a. 基本的ニーズとその充足
		b. 生活習慣とセルフケア
		c. 文化的規範と学習
		d. 基本的ニーズと健康とのかかり
		e. 生活の安全と環境
		f. QOL
		g. 健康への影響要因
	D. 看護倫理	a. 基本的人権、世界人権宣言、個人の尊厳
		b. 医療の倫理原則、ケアリングの倫理
		c. 患者の権利
		d. 患者の尊厳、権利の擁護と看護の役割
		e. 専門職と倫理
		f. 倫理綱領
		g. 安全確保と抑制・拘束
		h. インフォームドコンセントと自己決定、代理意思決定
i. プライバシー保護と個人情報保護		
j. 終末期と看取りにおける患者・家族の意向確認と尊重		
2. 看護の展開		A. 信頼関係の構築
	b. 共感、傾聴	
	c. 患者・利用者・家族との協同	
	d. 目標の共有	
	B. 問題解決過程	a. 看護過程・看護診断の概念
		b. 看護過程の構成要素
		c. 看護理論と看護過程
	C. 看護実践過程	a. 根拠に基づいた看護<EBN>の概念
		b. クリティカルシンキング
		c. リフレクション（プロセスレコードを含む）